

第55回未来教室 新宿区立西早稲田中学校

1. 学校名 新宿区立西早稲田中学校
校長 片倉元次 副校長 大田黒憲一
2. 住所 新宿区戸山3-20-2
03-3205-9674
3. 開催日時 平成25年12月16日(月)
2時間目 9:40~10:30
3時間目 10:40~11:30
4. 実施学年 2年生 4クラス(125名) 2クラスずつ合同で実施
5. 内容 社会科「本州四国連絡橋の建設と社会的意義」
6. 協力企業 本州四国連絡高速道路株式会社
(講師) 東京事務所 技術調整課 山口和範様
糸日谷淑光様

当日の様子



未来教室『本州四国連絡橋の建設と社会的意義』によせて 新宿区立西早稲田中学校 社会科輪湖みちよ

なんと贅沢な時間だろうか。というのが授業を受けた正直な感想である。日本の諸地域(中国・四国地方)の単元で行った本州四国連絡高速道路(株)東京事務所の方々による未来教室は、橋の概要・必要性・歴史・裏話も含めた建設・技術・架橋の意義と経済効果という多岐にわたる内容を、クイズも交えた詳しい解説で、非常にわかりやすく学ぶことができた。

教科学習に位置づけられた未来教室は始めてだと同ったが、中学校学習指導要領にある社会科の目標「広い視野に立って、社会に対する関心を高め」や、今回の改定の趣旨である「社会参画に関する学習を重視することが必要である」ことに沿った有意義な授業であったと感じている。

生徒の感想にも『橋に興味はなかったが、授業を聞いて天候に左右されず、時間が短縮されるなどいいことづくめの橋にとっても興味をもった。』『丈夫な橋にするために現場責任者がダイバーの資格をとり、海底まで行って自分の目で確認するなんて、人々の苦勞があってできる橋だと思った。』など、橋をつくる人の視点に立って学び、その思いをくみとった感想が見られた。そして『たくさんの人々の苦勞に感謝して、橋を渡りたい。いつか自分も、人々のためになる仕事をしたい。』というように、社会参画に向けての意欲が高まった生徒も多かった。

これは、前回の未来教室『企業の方による講演会』を受けたからこそその成果であるとも感じている。前回は感じたことだが、生徒たちは実際の体験からくる言葉に対しては、より興味をもって聞こうとする。そして、自分に置き換えて考えようとする。だからこそ、知識や思考力が身につく。今後もぜひ、多くの生徒が未来教室を受けることができるよう、年間指導計画の中に未来教室を位置づけていきたい。

最後になりましたが、今回講師を引き受けてくださった本州四国連絡高速道路(株)東京事務所の皆さま、ご尽力いただきましたおやし日本の皆さまにお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

新宿区立西早稲田中学校「未来教室」参観記

おやじ日本学校と企業との連携担当 池田利美

12月16日（月）新宿区立西早稲田中学校で「未来教室」が開催されました。

本州四国連絡高速道路(株)による「本州四国連絡橋の建設と社会的意義」についての授業で、未来教室としては初めて、社会科の教科として位置づけられた授業でした。

明石海峡大橋は、高さ300mと東京タワーとほぼ同じ高さで、その鉄の量で東京タワーが50基できるとか、そして、東京のこの橋をかけると、東京タワーから国会議事堂まで届いてしまうなど、橋の大きさを実感できる興味深い説明がありました。

また、海底の工事では、潜って海底を確認したり、橋が完成したら一番上まで上ってワイヤーの確認をするなど、工事の様子が臨場感あふれる映像や写真で紹介されました。

120年以上前から四国の野菜や魚を新鮮なまま遠くへ運びたいという地元の強い思いがあり、明治43年から運航された宇高連絡船も台風や霧で運休してしまうということから、橋に対する期待が一層高まったようです。

瀬戸大橋の開通により、岡山・坂出間の移動時間も3分の1になり、天気にも左右されずに、いつでも移動できるようになったということで、橋を利用しての通勤、通学も可能となり、交通量も3倍以上になるなど、大きな効果をもたらされたことを知りました。

最後に、「橋のおかげで、四国の新鮮なものが東京でも食べられるようになったり、生活が豊かになっているということがわかった。」「大幅に時間が短縮され便利になったが、そこには莫大なお金と多くの人関わっていることがわかった。」などの感想が披露され、日常の授業では味わうことのできない多くの刺激や感動を感じる授業となったようです。